

## 林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	かしおあさき 檜尾阿佐線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市(旧東祖谷山村)																	
事業概要	<b>【目的】</b> 当該路線は、国道439号（三好市東祖谷檜尾地区）を起点として、森林基幹道阿佐名頃線（三好市東祖谷麦生土地区）を結ぶ森林基幹道である。当該路線の開設により、森林施業が促進されることで、森林の有する公益的機能の高度発揮や木材の搬出をはじめとした施業のコスト低減が期待され、県産材の増産とその利用による地域経済の活性化にも寄与するものである。																			
	<b>【内容】</b> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 35%;">2,460ha [うち国有林 1,547ha]</td> <td style="width: 35%;">[人工林面積:1,576ha (64%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>164戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>11,140m</td> <td>(うち令和2年度末の供用(予定含む)延長 6,661m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>2,222,000千円</td> <td>(うち令和2年度末の実施(予定含む)事業費 450,989千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成18年度～令和17年度</td> <td>(30年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	2,460ha [うち国有林 1,547ha]	[人工林面積:1,576ha (64%)]	受益戸数(森林所有者数)	164戸		幅員	3.5～4.0m		計画延長	11,140m	(うち令和2年度末の供用(予定含む)延長 6,661m)	総事業費	2,222,000千円	(うち令和2年度末の実施(予定含む)事業費 450,989千円)	事業予定期間	平成18年度～令和17年度
利用区域面積	2,460ha [うち国有林 1,547ha]	[人工林面積:1,576ha (64%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	164戸																			
幅員	3.5～4.0m																			
計画延長	11,140m	(うち令和2年度末の供用(予定含む)延長 6,661m)																		
総事業費	2,222,000千円	(うち令和2年度末の実施(予定含む)事業費 450,989千円)																		
事業予定期間	平成18年度～令和17年度	(30年間)																		
評価	<b>【事業の進捗状況】</b> 平成18年度に着工し、起点側（檜尾工区）4,585m、終点側（阿佐工区）2,076mで供用を開始しており、令和2年度末の進捗率は、59.8%である。起点側（檜尾工区）は、平成30年7月豪雨で被災、終点側（阿佐工区）も地すべり現象が見られることから調査観測中で、現在は両工区共に休止している。今後は、災害復旧工事及び地すべり対策工事完了後、順次開設工事に着手し令和17年度の完成に向け、着実な進捗を図っていく。  <div style="text-align: right;">[進捗率:59.8%]</div>																			
	<b>【関連事業の整備状況】</b> 当該路線の沿線では、支線となる森林作業道が開設され、森林整備が盛んに実施されている。今後も、搬出間伐をはじめとした森林整備が実施される予定である。																			
	<b>【社会経済情勢の変化】</b> 県内林業を取り巻く環境は、木材需要の高まりに加え、近隣地域での大型製材工場や木質バイオマス発電所の相次ぐ稼働により原料となる木材の不足や、日本とEUとのEPAやTPP11の発効など、経済のグローバル化が加速する大きな転換期を迎えている。これらをチャンスと捉え、成熟する森林資源を活用し、県産材の更なる増産とその利用拡大を図ることで、林業の成長産業化や森林整備の促進、地域経済の活性化に向けて、各種施策を実施することが重要となっている。そこで、高性能林業機械の大型化に対応し、効率的に木材運搬を行い搬出コストの低減につながる林道を核とした林内路網の整備が求められている。																			
項目	<b>【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】</b> 計画期間の変更(自然災害の影響に伴う期間の延長)																			
	<b>【事業効果の発現状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路網整備により森林施業のコストが縮減され、森林整備が促進された。</li> <li>・森林整備が促進され、森林の持つ公益的機能が高まった。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">                     [費用対効果]      1.87      (国の採択基準は1.0以上)                 </div>																			
目	<b>【受益者・関係機関の意向】</b> 森林施業のみならず、地域の交通ネットワークとしての役割も期待されることから、地元からは早期完成を要望されている。																			
	<b>【事業の実施方針】</b> 継続して事業を実施する。																			